

第5回スポーツによる地域活性化懇話会 概要

1. 日時

令和2年10月12日（月曜日）午後3時00分～午後4時00分

2. 場所

山梨県庁2階特別会議室（テレビ会議システム）

3. 出席者

○ 構成員

高橋義雄、大浦征也、中嶋文彦、古屋光司、山下修作、吉永憲

※座長以外は五十音順、敬称略

○ 山梨県

知事、スポーツ振興局長

4. 会議概要

○ 山梨県版スポーツコミッションについて

- ・（スポーツコミッションの代表者については）民間活力を引き込めるようなキャリアを持っていることが重要で、資金の流入ということも含めて考える必要がある。
- ・ 山梨を良くしていきたい、という誰にも負けない情熱を持つ人がトップを担えば、多くの人々の共感を得られる。様々な部署や企業などとの折衝もあると思うので、推進力と調整力のバランスも重要。
- ・ 人材を探すのは大変で、今の事業をやめて移ってもらうのは非常に難しい。どういうスペックなのかということと併せて、どうやってその人を引き抜くのかということ、セットで考えていく必要がある。
- ・（スポーツコミッションの代表者については）幅広いビジネス、その方及びチームでの0→1での事業創出等をバックグラウンドとして持たれていることが重要。
- ・ 様々なステークホルダーが存在する中で、（代表者に）資本市場との繋がり、ファンやコミュニティとの繋がり、自治体との繋がり等、スポーツ分野の事業経営経験があれば、それはある程度そのまま活かせる部分が多いただろう。

○ 総合球技場について

- ・ スポーツ施設という大前提に何か機能を付けるというよりも、スポーツ「も」できる別の目的の建物というコンセプトがあって良く、地域活性を目的とした施設でたまたまスポーツもできるといった発想の逆転を試してみると、場合によっては、今までスポーツ業界への資金提供をして

こなかった企業を呼び込める可能性にもつながる。

- 球技場単体では運営は成り立たないというのが、おそらく世界的な共通理解となっている。いかにそこを複合化し、常に人がいるようにして、消費が生まれるようにするのが重要。
- シンガポールにタンピネスハブというスタジアムがあるが、そこはスポーツだけの場所ではなく、役所、図書館、クリニック、ハローワーク、塾などの施設が1ヶ所に集約されており、日々の賑わい創出を実現している。
- どれだけのビジネスサイズとして行っていくのかについて、紐づく適切なコミュニティサイズ、ビジネスサイズ、山梨県へ着地するお金のサイズ、雇用のサイズ等々、個々で行われるビジネスのデザインをはっきりすることで、この後の議論も明確になる。